



田舎暮らし、その日暮らし

第3回 「木の話」

月江 成人：ホルティカルチャリスト (株)プランタス代表
4年前に北播磨の小さな農村に移住。築100年以上の古民家を改修しながら、ゼロからの庭&畑作りに取り組む。

ここは内陸部に位置するため、朝夕と昼間との寒暖の差が激しい。おかげで夏は寝るのに冷房を必要としない。そして、秋には色鮮やかに山の木々が色づいてくれる。ただ、それは遥か山の上の話で、家のすぐ後ろからはうす暗い杉と檜の植林地が広がっている。よく植えたものだと思心するぐらい頂上近くの急斜面まで見事に植林されている。所々石垣が積まれているのは、戦後間もなくまで広がっていた段々畑の名残だそう。高度経済成長期に孫の代にと期待して植えられた木も、手が入らずひょろっとした姿で、この先何年経っても商品になりそうもない。

背後にはこの人工林がいくらでもあるので、我が家の杉林は全て伐採して明るい落葉樹林に変えていくことにした。木は生長が遅いというイメージがあるが、クサギやクマノミズキなど、伐採後いつの間にか生えてきて気がつく結構な大きさになっているちゃっかり者もいる。最近ではコシアブラが大きくなって、美しく黄葉した葉で存在感が出てきた。



美しく黄葉したコシアブラの芽同様食用になる

冬はマイナス5℃前後まで冷え込み、雪もかなりの頻度で降る。ただ、雪下ろしをしなければならないほどではなく、程よく雪景色を楽しむことができるので、私はこの冬が結構好きだ。暖は田舎暮らしにはお決まりの(?)薪ストーブ。家全体を包み込むように、炎の視覚的心理効果もあって心身ともに暖めてくれる。ただ、そのための薪は半年以上前には用意しておかないと間に合わない。薪材料としてはコナラなどの落葉樹が適するが、自然林が少ないこの地域ではそう贅沢も言っていられない。今はせっせと切り倒した杉を中



ドラマティックに景色を塗り替えてくれる雪

心に薪にしている。杉はすぐに燃え尽きてしまうので頻繁に薪をくべなければならないので大変だ。

こちらに引っ越してきて、最初の家族からの誕生日プレゼントが斧！あまり洒落にならないような気もするが、薪割りも大変そうに見えて、時間があればスコンスコンとなかなか楽しい。ところが、中にはケヤキのように木目が捻じ曲がっていてなかなか割れない木もあり、その時は一苦労だ。油圧式の薪割り機がトラシに載っていたので、家族に話したら、まだ10年はいらぬんじゃない？と言われてしまった。家の外壁を覆うように積み上げられた薪の山を見ると、これで無事に冬を迎えられるという『安心』を感じ、季節が進んで積み上げた薪がどんどん減ってくると、春も近いかと心身が緩んでくる。我が家では、薪も季節の移り変わりを感じさせてくれる。



季節の移ろいを感じさせてくれる薪の山

2011ひょうごまちなみガーデンショー in 明石 花と緑のまちづくりフォーラム報告

2011ひょうごまちなみガーデンショー in 明石が9月23日～10月2日にかけて明石公園及びその周辺において開催されました。最終日に明石商工会議所で行われた花と緑のまちづくりフォーラムは、ひょうごガーデンマイスター（以下マイスター）の企画・運営で開催され、県下各地から約250名のガーデナーさんが集まり、交流を深めました。

今年度は、東日本大震災被災者支援のため、阪神淡路大震災を経験したガーデナーとして何が出来るかを考え、テーマを「震災復興と花と緑のまちづくり」としました。

講師には、被災者支援を実践されている方々を県内外からお招きして、今後の支援のあり方について話し合いました。

基調講演1 「復興・支援に向けた花と緑のまちづくりの役割と活動」

NPO法人ジャパンハーブソサエティー（JHS）仙台支部長

宍戸 多恵子 氏

○講師プロフィール

ハーブに魅了され、1989年JHS会員となり、1991年アトリエHERB AND CRAFT 設立。翌年から教室を開講し、ハーブの普及にあたっている。東日本大震災後、被災者を支援する「みどりの手をつなごうプロジェクト」を立ち上げて活動されている。



「みどりの手をつなごうプロジェクト」は、全国から寄せられた花、ハーブ、野菜の種や苗及び植栽作業をするボランティアの方々を、それを必要とする自治体、施設、団体、個人に結びつける支援活動です。被災者に、自分の手で植物を育てる楽しさ、日々の管理作業を通じて交わす仲間とのコミュニケーション、緑多きまちなみの景観の美しさ、何よりも植物の生命の育みから生きる元気を感じてもらおうと立ち上げました。何気ない日常の幸せがもうないわけではないこと、それに気がつけるほどに気持ちが悪くなること、そう

したことが今とても必要だと考えています。

これまで石巻市の福祉施設、気仙沼市の宿泊施設や宮城県立聴覚支援学校などの施設に花苗の提供を行うと共に、宮城大学主催「疲労回復セミナー」での園芸療法の指導、名取市、岩沼市に防潮堤としての海岸防災林をつくる運動などを兵庫県を始め、全国からの支援を受けて実施してきました。

これからも緑の支援で心と身体を穏やかに繋いでいながら、共に復興していきたいと考えています。今後の継続的な支援をお願いいたします。

基調講演2 「被災地における園芸療法の取り組み」

兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師

天野 玉記 氏

○講師プロフィール

兵庫教育大学大学院教育臨床心理コースを修了し、臨床心理士になる。特別養護老人ホーム清住園の副施設長在職中に認知症高齢者に対する園芸療法を実践。2010年より現職。



花緑には、主観的にも客観的にもストレス軽減効果があるという自らの研究成果を踏まえ、東日本大震災の被災者を支援するため、花と緑による癒し（ストレスマネジメント）を実践しています。

兵庫県立淡路景観園芸学校と兵庫県園芸療法士会は、兵庫県に避難されている方々への支援として、フラワーアレンジメント制作や、淡路景観園芸学校の園芸療法ガーデンでの花摘み、ブーケづくりなどの場を提供しています。

また岩手県では、現地で被災者支援にあたっていている学校関係者、保健師、看護師、保育士などを対象とした岩手県立大学主催の研修会や、震災後PTSD治療をしている盛岡清和病院の研修会で、園芸療法実習として、ハーブの手浴、芝人形制作、プチ園芸療法の紹介、花と緑によるストレスマネジメントの講義、子どもの心のケアの講義、茶話会等を行っています。

パネルトーク

パネラー

穴戸多恵子さん
天野 玉記さん

大平まち子さん（あわじオープンガーデン実行委員会）
北井 進さん（『コウノトリの箱庭』運動代表）
渡邊 拓也さん（ひょうごガーデンマイスター）

コーディネーター 天川 佳美さん（有まちづくりコー・プラン取締役）

阪神淡路大震災の時に「ガレキに花を」の活動をされ、今回も東北の被災地にいち早く入って、花と緑の支援をされている。

パネルトークでは、パネラーの皆さんが実践されている活動を紹介し、コーディネーターの天川さんを中心に今後の支援のあり方について話し合いました。

大平さんが所属するあわじオープンガーデン実行委員会は、春のオープンガーデン開催時に義援金協力を呼びかけ、花苗や野菜苗を育てて東北に届けることにしました。8月1日、マイスター有志らと出発し、現地のコーディネートをお願いした穴戸さんらとともに、石巻市の知的障害者施設内に設置された仮設住宅に行き、入所者や職員も交えて作業をしました。春に向けて明るい希望の花が咲いてくれるようお願いながら、花壇やプランター、菜園に丁寧に植栽し、仮設住宅の日よけ用の緑のカーテンにするゴーヤも植えたそうです。

マイスターの渡邊さんも大平さんたちと共に被災地を訪ねました。被災地周辺の大面積を、早期に花緑で彩るベストの方法は苗の植え付けよりも播種工法だと確信し、野生草花（ワイルドフラワー）の20種混合種子を携えて現地入りされました。雑草原化しつつある被災跡地には、まずボランティア集団による除草と整地と土づくり、いわゆる植栽基盤整備が必要だと訴えられました。

北井さんは、寄せ植え「コウノトリの箱庭」を被災地に届ける運動を継続中です。宿根草を中心に植栽してあるプランターは環境にやさしい杉材を使用しています。箱庭の名前は、日本の空から姿を消したにもかかわらず、長い年月を掛けて自然界に戻ったコウノトリと、失意の中から立ち上がろうとしている被災者の

皆さんの姿を重ね合わせて命名されました。但馬県民局や豊岡市の支援を受けながら、活動資金を募る運動を展開し、被災者の方々との交流活動を続けていきたいとのことでした。

最後にフォーラムとパネルトークでの成果を今後の被災地支援に生かしていくため、これまでの支援を一過性のものに終わらせるのではなく、継続して県内の花緑団体に呼びかけ、募金や協力を求めていくことを確認しました。

また、マイスター有志が、スイセンを被災地に届けるプロジェクトを提案し、会場でそのための義援金を募り、65,610円集まりました。東北の春一番に清らかな花を咲かせてくれることを参加者みんなで願っています。



▲義援金を募る

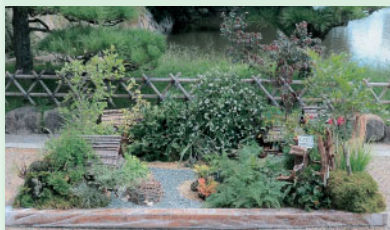


2011ガーデンコンペ・ひょうご

☆☆☆ 最優秀賞 受賞者の横顔 ☆☆☆ (兵庫県知事賞)

今年度のガーデンコンペ・ひょうごは、直前の台風接近で、出展数の減少が心配されましたが、昨年度並みの307点の出展があり、いずれも力作でした。9月8日に写真部門、9月23日にガーデン部門の審査が行われ、次の方たちが最優秀賞（兵庫県知事賞）を受賞されました。

緑のしずく会（加古川市） コミュニティガーデン部門



作品のテーマは‘ふる里’です。ひなびた良さと落ち着いた雰囲気を出して、日本の原風景を再現したいと考えました。そのため、植物は主に山野草を使い、古民家のミニチュアを手作りして配置し、全体の色彩バランスに配慮しました。

幼少期に山野の自然の中で育ち、いろいろな草花と親しみ遊びました。その中で、芳しい花の香りや、不思議な形の花と出会い、植物への興味が芽生えました。それから20数年、育てる楽しさも覚え、現在に至っています。

これからも山の風景、田舎の風景を注意深く観察し、追求しながら挑戦していきたいです。また他のガーデナーさんとの交流の中で意見交換をして、いろいろと習得していきたいと思っています。

北川 由美子さん（加古川市） 寄せ植え部門

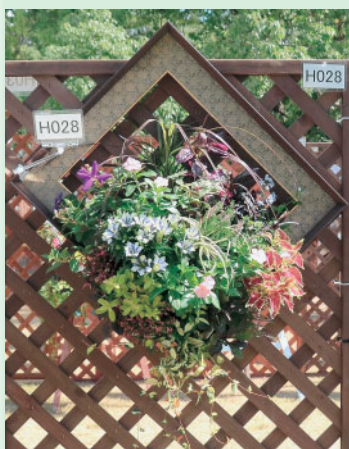


神戸に住んでいた頃、向かいのお宅が美しい菊や花しょうぶを育てておられました。私が見とれていると、「育ててみませんか？」と苗を分けて下さいました。それをきっかけに草花を育てるようになり、加古川に転居してから本格的に始めました。

ガーデンコンペでは、これまで2回の最優秀賞を含め4回賞を頂きました。今回は初めて息子と一緒に作品を作り、受賞できたことが、最高に嬉しかったです。

これまでの受賞作品は、コンパクトにまとまりすぎていたように感じていましたので、今回はダイナミックに作りたと思いました。そこで、使用した花の多くを種から育ててみました。元々素朴な花が好きなので、これからも昔懐かしい花を種から育てて、作品や身近な花壇を作り、訪ねて来られた方々が心穏やかになること、花の好きな方がたくさん増えることを願っています。

浦野 文子さん（加古川市） ハンギング・壁掛け部門



平成8年から加古川市の日岡花クラブに所属して活動しています。そこではローコストの花壇づくりを心がけて、種まき、挿し芽を行い、花好き会員27名が一つの家族のようにアイデアを出し合い、市のイベントにも協力しています。

今回の作品は、丹精込めて育てた苗をスリットのどの部分に使えば美しい色合いとデザインになるかいろいろ工夫しました。レッドアイビーでノボタン、リンドウを支え、優雅で光り輝く小さな花を加えました。受賞できて、自分の作品に何度も「ありがとう、よかったね」と声をかけてやりました。

今後は、草花でなく、カイツカ、シンパク、シノブ、ドウダンツツジなどを使って和風の盆栽的な寄せ植えに挑戦していきたいと思っています。ガーデニングを始めようかと迷われている方、やれば出来ます。

一歩踏み出し、細く長く継続されますように・・・



宿南 安枝さん (養父市) 額縁型プランター部門

幼少の頃からお花が好きでしたが、実際に手がけ始めたのは、子どもの手が離れ、自宅に小さな庭ができた頃からでした。

今回の受賞作品を制作するに当たって、震災を体験された方々に、花緑の力で伝えられることはないかと考えました。香りと姿で元気づけられたら、と思い、赤いペチュニアと、触れると香るハーブにこだわりました。

これからもいろいろなことに挑戦して、作品の幅を広げていきたいと思ひます。

今後、養父市でオープンガーデンができ、それを通じて、いろいろな交流が深まっていったらいいなと願っています。

ガーデナーの皆さん、一緒にがんばりましょう！



寺本自治会 (伊丹市) 花壇写真部門 (コミュニティー・職域)



今回の受賞は、全く思いがけないことで、会員一同とても喜びました。平成17年に草むら状態のところを、自治会の役員で除草し耕して花壇を作りました。当初は手探り状態でスタートしましたが、自治会の皆さんの協力を得て現在のような花壇に仕上がりました。

限られたスペースを自然風の花畑にするために、デザイン、配色、高低を工夫し、癒しの空間になるよう、常々考えています。

これからも、皆さんに楽しんでもらい、自分たちも楽しめることが出来、気負いがなく、人を和まし、人と人をつなげていく場にしたいものです。

ガーデンコンペ出展作品は、年々レベルアップされていてとても楽しみです。



中井 哲男さん (三田市) 花壇写真部門 (家庭)



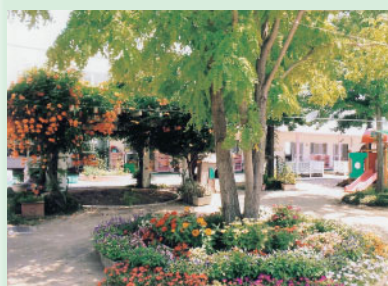
スローライフに憧れ、狭くても季節の移り変わりや、安らぎを覚えるような庭を目ざし、こつこつと手作りし、今年で早20年目になります。その節目の年に受賞出来た事を大変嬉しく思います。また、支えてくれた花仲間及び家族に感謝します。

存在感を強調するため、ともすれば原色に片寄り、華美になりがちですが、日々多くの時間を庭で過ごす私にとっては、やや寂しいかな~と思うくらいの色合いが癒しや安らぎを感じられ、いつまでも庭に佇みたくになります。

震災後に始めたキッチン容器栽培法を5年前の定年を機により進化させ、手軽に草花栽培が出来るようになりました。その技術を花育、福祉、公共緑化に生かす活動を今後も実践していきたいと考えています。



東古瀬保育園 (加東市) 花壇写真部門 (学園)



元武庫川女子大教授大塚歌子先生主催の幼児教育を考える会「手をつなぐ花の会」で環境作りの大切さを勉強させていただいてから、子育て環境の一環としての花緑に関心を持つようになりました。

写真の花壇は、晩秋に採集した種を春にまきました。春まきは育てやすく、花の種類が豊富で、ご覧のように美しく園庭を彩ってくれました。

もうすぐ新園舎の建築に入り、それに伴って新しい花壇作りに取りかかります。子どもたちと自然が共存出来るような作品を一から考えていきます。

子どもに心を寄せ、花に心を寄せ、これからも労を惜しまず取り組んでいきたいと思っています。

グリーンメッセージ

東日本大震災復興に果たす花と緑のまちづくり

(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長
兼国営明石海峡公園管理センター長 石原 憲一郎

「天災は、忘れた頃にやってくる」

地球物理学者の寺田寅彦の言葉であると言われてはいますが、阪神・淡路大震災からわずか16年しか経過していない今回の大震災は、とても忘れた頃とは言えないくらい短い期間で起こり、甚大な被害をもたらしました。

しかし早9ヶ月が過ぎ、震災直後の混乱期を経て、多くの被災者が避難所から仮設住宅へ入居して新たな生活をスタートさせています。それに合わせ、花緑によって被災者の心を支える支援活動が活発に行われ始めました。兵庫県では、あわじオープンガーデン実行委員会やひょうごオープンガーデンネットワークなどの花緑団体が、被災地の仮設住宅や福祉施設に花苗や花木、球根、野菜などをプランターと共に、数千個の規模で送り続けたことは特筆すべきことです。また、阪神・淡路大震災の際、被災地に花の種を蒔く運動「ガレキに花を」や被災地の住宅地に生け垣設置を推進する「押しかけ生け垣隊」など数々の行動を起こしてきた市民のボランティア団体「阪神グリーンネットワーク」や兵庫県立大学大学院（淡路景観園芸学校）の教員や学生達が被災地に入り、花と緑を活用した様々なボランティア活動を行っています。

造園の専門家が集まる(社)日本造園学会は、震災後、速やかに復興支援調査委員会を立ち上げ、4～5月に第一次調査を行い、その結果を踏まえて、5月に「東日本大震災復興支援緊急集会」を開催し、次の提言を発表しました。

① まちの防災・減災および持続的発展の観点からの復興まちづくりの推進

地域防災拠点としての公園・緑地の計画的整備、花と緑によるグリーンケアプロジェ

クトの推進や被災者の心のケアに資するレクリエーション空間の提供など

② 里山・里地・里海の連環を重視した復興まちづくりの推進

「三陸」海岸国立公園の拡張、森・里・海の連携からなる小流域を基本単位とした復興まちづくりなど

③ 新しい国土づくりにつながるランドスケープの再生

海岸林や貴重な自然環境の保全・再生、積極的な緑地化など環境インフラの構築によるレジリエンス（困難な状況でも、うまく適合できること）の強化

今後、国レベルや地域レベルで、様々な復興計画が立案されることとなりますが、生活や産業の利便性の確保を前提にしつつも、仙台平野の屋敷林である居久根（いぐね）などをモデルに、まち全体を大きく包み込むような緑のネットワークを、復興計画の根幹とすることを特に強く主張いたします。

被災地では冬に入り、厳しい生活を余儀なくされていますが、植物が芽吹き成長する明るい春に向けて、希望を抱いていただきたいと願うばかりです。



いぐねのある風景（東北学院大学HPより）

参照 神戸新聞社説(1995.7.27) 『緑の網の目』を復興の街に

「長田の町がどんだん、どんだん、どんだん西へ焼けていきました」「大園公園という所で止まりました」「桶かな。大きな木が何本もあって。よく見ると一本の木で真っ黒になってチリチリになっている枝と、生き生きとした緑の枝とがあるんです。木っていうのは水の壁らしいですね。木がたくさん並んでいると火事がそこで止まるらしい。現に止まったんです、あそこでね」(詩人・安水稔和さんの講演「生きて愛する神戸」より)。

震災でいちばん強かったのは樹木たちで、街路樹や公園の木は、風力を弱め、緑の壁となって火災の延焼を止めた。家屋倒壊の支え木にもなった。廃墟の中で若葉をもえ出させ、花を咲かせ、いま人々に緑陰を与えてくれている。

阪神・淡路大震災から復興する新しいまちは、緑を大切にしなければならぬ。

兵庫県が、このほど示した「都市復興基本計画案」は、主な目標の一つとして河川や街路に沿った水と緑の防災帯づくりを強調している。六甲山南ろくに沿い土砂災害を未然に防ぐ「緩衝緑地空間」――植樹のグリーンベルトを連ねるのをはじめ、大阪湾に注ぐ中小河川と国道四三号線を、それぞれ南北、東西の緑の幹線にして、並木のネットワークを形成しようというものだ。

神戸市の復興計画でも、「ひょうご創生研究会」の提言にも、非常によく似た計画がある。

やはり河川が軸になり、街路へ格子状に広げていこうという。都市生活の安全と快適さを同時にもたらしてくれる緑の構想は、だれもが望むところだろう。プラン倒れに終わりがたくない。

五十年前の終戦直後、実は、同じようなプランが、神戸市で立てられた。

都市防災学者の越沢明氏によると、一九四六年の防災復興基本計画要綱で、山と海に挟まれた市街地の、南北方向の防災帯として、河川沿いの幅七十メートルの帯状緑地と、緑樹を持った幅百メートルの街路の計画が立てられた。平時には都市に美観とうるおいを与え、火災のときは防火帯、水害時にははんらんの洪水敷になる「一石三鳥」の案だった。

しかし、計画は五五年に廃止され、生田川、石屋川、妙法寺川などで、部分的にしき達成されていない。帯状緑地の実現化という、あのとときの復興の理念を継承し、完成させることは、阪神大震災の復興に携わる世代の歴史的な使命といえるかもしれない。

三八年の阪神風水害の復興計画で目指した山手幹線、浜手幹線などが実現したのは、戦災復興計画の中でだった。都市の社会資本の整備は、長期にわたることを覚悟しなければならぬ。それだけにしっかりとらした歴史観や計画理念、そして息長く着実な実行力を求められている、と言えらう。

広域的な緑のネットワークは、ぜひ実現したい。それには、どんな社会資本が大事かという価値観の転換、配分の見直し、国庫補助の拡大が必要だ。

ほっと

●●● 相談員ニュース ●●●

相談員 若松 康史

寒さに弱い植物の冬越し

1月に入ると寒さは一段と厳しくなり、寒さに弱い植物は室内で冬越しをさせることになります。最近では機密性の高い家屋や温暖化のため、冬越しも比較的楽になってきました。しかし、今年は特に節電の必要性が叫ばれていることもあり、人がいない部屋では暖房を切ると、日中は暖かなくても明け方は予想以上に温度が下がります。夕方には冷たい外気を伝えやすい窓はカーテンを閉め、保温するようにして下さい。同じ部屋でも部屋の真ん中や、テーブルの上のような高い場所は床面や窓際に比べると2-3度高く、植物も安全に冬越しできます。ただし、住宅状況によって温度状況は異なりますので、この時期に是非、最高最低温度計を購入し、ご自宅の温度状況をチェックされることをお勧めします。

特に寒さに弱いカトレア(大型種)やコチョウラン、セントポーリア等は最低でも15度は欲しいところです。数鉢程度であれば、(50cm四方の)足温め用の小さなホットカーペット(40W)を利用すると、電気代も1時間0.5円位と経済的です。念のため予め温度をチェックしてから植物を入れるようにして下さい。



図1 左が最低温度 右が最高温度を示している。



図2 ホットカーペットの上に防水用としてビニールシートをかけ、鉢皿は必ず敷くようにする。その上に段ボール箱(ビニール袋でも良い)をかぶせると5-6度は高くなる。

*****園芸相談コーナー*****
10:00~16:00
 火曜日を除く毎日
 Tel 078 (918) 2405
 Fax 078 (919) 5186
 写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

県下の公園紹介

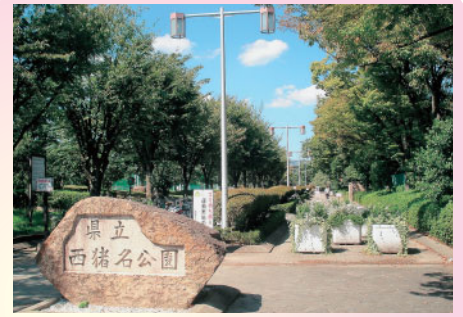
第11回☆☆☆西猪名公園

西猪名公園は、JR宝塚線の北伊丹駅前にあり、すぐ南には国道171号線が走るなど、利便性のよい公園です。大阪国際空港から飛び立つ飛行機を真下で見ることができます。大阪国際空港周辺の環境整備のため昭和57年に誕生し、今年で開園30年を迎えます。

面積は6haで、県立都市公園としては小さな公園ですが、一時に約2,000人が楽しめるウォーターランドがあります。大型の滑り台でとてもスリルのあるウォータースライダーなど盛りだくさんの親水施設があり、夏季の有料営業期間中には、延べ8~9万人の親子連れなどで賑わいます。

他にも、園内にはテニスコート（人工芝12面）や球技場があり、地元のテニスやサッカーの大会、大学のテニス部やラクロス部の練習などにもよく利用されています。普段は活気あるスポーツ公園ですが、地震等災害時の「広域防災拠点」にも指定されています。

今後は現在行っているテニススクールのほか、近年の健康ブームも踏まえ、健康とスポーツをテーマとした各種イベントなどを行っていきますので、是非ご利用下さい。



ナイター設備のある球技場

ウォーターランド

お問い合わせ 西猪名公園管理事務所
〒666-0024 川西市久代6-30-1 TEL. 072-759-0785

県下の相談所紹介

第3回☆☆☆西宮市北山緑化植物園

緑の情報発信基地として昭和57年に開園し、2012年で30周年を迎えます。総面積9haでその3分の1が花壇や樹木の見本園となっています。約0.7haの花壇では、宿根草を中心に約2,000種類の草花が見られます。

「花と緑の相談コーナー」では、草花、樹木、観葉、バラ、ハーブ、芝生、花壇、造園、土、肥料等、各分野の専門家をお招きして相談に対応しています。それぞれの担当日については電話かHPでご確認ください。

また、年30回ほどの「花と緑の教室」の開催、園内で採集した材料を使ったドングリクラフトなど年15回ほどの四季折々の展示会、園芸関係の専門書を自由に閲覧できる図書コーナーもあります。

その他園内には、植物園で育てた花苗や園芸資材等を販売している「市民ガーデンセンター」、友好姉妹都市の紹興市（中国）との交流のシンボルである小蘭亭や墨華亭、優雅な数寄屋造りで、美しい日本庭園も併せ持つ北山山荘、室内やベランダで育つ植物を紹介している展示温室、西宮市のオリジナルフラワーを研究開発している植物生産研究センターなどもあります。是非ご来園ください。



▲植物園内

お問い合わせ 西宮市北山緑化植物園 〒662-0091 西宮市北山町1-1
TEL:0798-72-9391 FAX:0798-72-1977 水曜休館、祝日の場合翌木曜日休館
花と緑の相談コーナー専用電話 TEL 0798-72-9387 火・水曜を除く12時~16時

花と緑のまちづくりセンターだより 19号

- 平成24年1月1日（年4回発行）
- 編集発行 財団法人 兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL：078(918)2405 FAX：078(919)5186
Eメール：info_midori@hyogopark.com